

令和3年度 徳島県立名西高等学校経営計画

1 学校教育目標

- 1 本校の歴史と伝統を重んじ、知・徳・体の調和がとれた、誠実で民主的・創造的な実践力のある心身ともにたくましい人間を育成する。
- 2 生徒一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばすとともに、個人の尊厳と基本的人権を尊重し、民主社会の実現に貢献できる人間を育成する。
- 3 我が国の文化と伝統を尊重するとともに、平和な国際社会づくりに貢献できる人材を育成する。

2 学校経営基本方針

- 1 明日に輝く名高生～挑戦・協力・創造できる生徒の育成に努める。
- 2 「文化芸術リーディングハイスクール」による芸術科の活性化と地域に愛される学校づくりに努める。

3 本年度重点目標

- ① 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の充実
- ② 自他を大切にする心や態度を育成
- ③ 社会的自立のために必要な能力や態度の育成
- ④ 基礎的・基本的な学力の育成
- ⑤ 活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成
- ⑥ 地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進
- ⑦ 文化芸術活動における地域への積極的な創造発信
- ⑧ 防災・安全教育の徹底と環境教育の推進
- ⑨ 主権者教育・消費者教育・情報教育の推進

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	今後の改善方策
基本的 生活習慣の 確立を図る 生徒指導の 充実	①基本的生活習慣の確立を図る 生徒指導の充実	生徒指導課 各学年主任	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) スマホの指導については、スマホマナーアップ運動を生徒会・PTAと連携して推進するなど独自の取組を実施することができ、3年連続でスマホが原因となる特別指導はなかった。しかし、遅刻者数減の目標を達成できなかったのも、さらに指導方法等の工夫改善を図りたい。	○基本的生活習慣は、人間の態度や行動の基礎となるものであり、生徒にとって社会的な自立や自己実現のために大変重要であるという認識のもと、さまざまな指導の徹底を図ってきたい。特に遅刻指導については、さらに改善されるように様々な指導を展開していきたい。スマホと交通安全の指導については、今後も関係機関やPTAと連携を図りながらマナーアップに努めていきたい。
			① 遅刻者数を700人以下にする。(R2は763人)	① 毎日の立哨指導や遅刻カードによる指導、また毎朝の声かけ指導など様々な取り組みを実施したが、遅刻者数は1月末までで670名で、昨年度の同時期(661名)とほぼ同じである。		
			② スマホマナーアップ運動を充実させ、スマホが原因による特別指導を0にする。(R2, 0件)	② 携帯電話安全教室など様々な取組の効果もあり、スマホが原因となる特別指導はなかった。		
		生徒指導課 各学年主任	活動計画	活動計画の実施状況		
			① 「遅刻ゼロの日」や「考査時の5分前登校」の取組を充実させる。また、遅刻カードで遅刻数や理由を確認し、個別に指導する。声かけ指導も毎朝実施する。	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個に応じた指導を実施した。また、遅刻ゼロの日の前日には、生活委員が校門前で呼びかけるなどの取組や考査時は5分前登校を実施した。毎朝の声かけ指導もおこなった。		
			② スマホ安全教室の実施やクリアファイルの配布、ポスター掲示など啓発に努める。また、生徒会やPTAと連携を図る。	② クリアファイルの配布やポスター掲示をして、スマホマナーアップ運動の浸透に努めた。また、生徒会やPTAも総会で宣言を発表し、運動の推進が図れた。		
			③ 登校時の立哨指導(毎日)、街頭指導(月1回)、交通安全街頭キャンペーン(年2回)、車体検査と通学別集会(年3回)、交通委員会による挨拶運動(月1回)を実施する。	③ 登校時の街頭指導を毎日実施し、毎月の学校安全の日には通学指導を実施した。3年生に対しては自動車免許取得説明会を開催した。交通安全街頭キャンペーンはコロナウイルス感染のリスクを考慮して実施しなかった。		

①

R3①

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	人権国際教育課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価
			① 徳島県人権教育推進方針にしたがって人権教育を推進すると共に、さまざまな人権課題について教職員間で共通認識を持つ。	① 校内教職員人権教育研修会や職員会議を通して、県人権教育推進方針に沿ったテーマを共に学び考えることで共通認識を持つことができた。	(評定) A
			② 生徒一人ひとりの人権意識を高める活動を推進する。	② 「名高入権の日」校内放送や、人権委員によるクラスでの人権標語の募集告知をはじめとする啓発活動を実践できた。	(所見) 教育活動全般を通じて人権尊重の精神の涵養につとめた。また、本校生徒の実態に応じた指導の充実もおこなった。そして、一昨年度まで2年間取り組んだ県教委人権教育指定研究の成果と手法を受け継ぎつつ、教職員で話し合う研修会を行う等、各種取組の充実を図った。
		③ 3年生対象の「人権に関する意識調査」で、人権課題に取り組む意欲を示す回答を9割以上にする。(R3年;R2年;93%, R1年;95%)	③ 「意欲的に取り組んだ」、「ある程度取り組んだ」を合わせて97%の回答を得ることができ、目標とした9割以上を達成できた。		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		① 各学年で人権HR活動検討会や人権教育研修会を計画・実施するほか、校外の各種研究・研修会に参加し、機会を捉えてその報告を行う。	① 人権HR活動事前検討会を各学年で毎回実施し、校内教職員人権教育研修会は2回実施した。校外研修の機会がコロナ禍で減じているが、高特人研大会等一部オンラインで参加することができた。		
	人権国際教育課	② 生徒会人権委員会による人権に関する取組を活発に行う。	② 文化祭人権展の実施、「名高入権の日」校内放送、人権新聞発行等を通して人権啓発に取り組んだ。		
		③ 多様性や人権を尊重し、いじめ・差別を許さない生徒の意識や態度を育てる人権HR活動や人権映画鑑賞会・講演会等を行う。	③ 人権HR活動を4回実施した。第3回は人権映画鑑賞会を実施、障がい者の人権について、また、他者を支えるということを深く考える時間を持てた。		
		生徒指導課 特別支援	評価指標	評価指標の達成度	総合評価
		④ 学校いじめ防止方針に基づき未然防止に努め、いじめによる特別指導を0にする。(R2は0件)	④ いじめ防止指導を徹底し、いじめによる特別指導はなかった。	(評定) A	
生徒指導課 特別支援	⑤ 生徒理解に努め、必要に応じた職員研修やケース会議を実施する。	⑤ 生徒の実態調査を基に、情報共有のための会議を実施した。また、必要に応じて、教科担任会などのケース会を行った。	(所見) いじめ防止の取組を徹底し、深刻ないじめ問題が発生することはなかった。また教育相談では、スクールカウンセラーが月2回程度来校し、生徒理解やその対応について共通理解に努め、適切な対応ができた。		
	活動計画	活動計画の実施状況			
生徒指導課 特別支援	④ アンケートを年2回実施し、早期発見に努める。また、いじめは絶対に許さないという姿勢を全校集会等で明確にし、生徒が相談しやすい環境をつくる。	④ 本校の実態にあった年間計画を作成し、アンケート調査(年2回)や個別面談などの取組を行うことで生徒の悩みや対人関係の状況を把握し、未然防止に努めた。			
	⑤ 特別支援教育の視点で、生徒実態調査を、年1回行い、その結果を教職員研修会で情報共有する。支援が必要な生徒については、年間2回以上ケース会を行う。(R2、ケース会2回)	⑤ 生徒実態調査を6月に行い、7月に情報共有のための職員研修を行った。支援が必要な生徒についての保護者面談、教科担任会など2回以上行うことができた。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	保健厚生課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価
			⑥ 生徒の心身の健康問題について、担任・保護者や必要に応じて専門の相談機関等と連携し健康相談活動を行う。(R2, 3件)	⑥ 心身の健康問題を抱えている生徒に対して校内で継続的支援を行った。(R3, 3件) スクールカウンセラー等活用事業を実施。(R3, 9件)	(評定) B
			⑦ 毎学期1回以上学校医による健康相談を実施し、生徒の健康の保持増進に努める(R2, 2回実施)。	⑦ 生徒の心身の健康問題について専門的立場から助言を得る機会を設けた。今年度初めてZOOMを用いての「こころの授業」を実施した。(R3, 1件)	(所見) コロナ禍により社会だけでなく生徒の心身の健康も大きく変化する中、スクールカウンセラー等活用事業を希望する生徒は今後も増加するのではないかと考えられる。また、健康診断の事後措置については、二次検査の受診対象者に通知を行い、未提出者については担任や保護者と連絡を取り合うことで全員の内科、心電図検査の二次検査を完了することができた。
			⑧ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了する。(R2 二次検査、内科、結核、心電図全員完了)	⑧ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了することができた。	
			⑨ ほけんだよりを毎月発行する。(R2, 6月以降月1回発行) 健康や性に関する講演会を年1回以上実施する。(R2, 中止)	⑨ 保健だよりは4, 9, 11月は教員が発行し、12月からは生徒保健委員会が発行した。性教育講演会の開催は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。	
		保健厚生課	活動計画	活動計画の実施状況	
			⑥ 保健室の機能を生かしながら担任、保護者と連携を図る。必要な場合はサポートセンター等専門の相談機関につなげる。	⑥ 担任、保護者、関係職員が相互に情報交換をとれるように連携に努めた。また、スクールカウンセラー来校時には情報共有を図った。	
			⑦ 希望者または必要とする生徒に対して学校医による健康相談を実施する。	⑦ 心身の不調を継続的に抱えている生徒、または担任や保護者が専門的な立場からの助言が必要と判断した生徒に対して健康相談を計画、実施した。	
			⑧ 健康診断の結果、未受診者や二次検査が必要な生徒に対して受診指示を周知徹底する。	⑧ 未受診者や二次検査が必要な生徒に対して個別指導や担任を交えて受診の必要性を説明した。	
			⑨ ほけんだよりを通して健康への関心を高める。定期的に健康や性に関する講演会を実施する。	⑨ 生徒保健委員会が担当する月の健康テーマについて情報を収集し、作成するように計画、実施した。性教育講演会の開催は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。	
		特別活動課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価
			⑩ 「あいさつ運動」を毎週2回以上実施する。	⑩ 「あいさつ運動」を週2回実施できた。	(評定) A
		特別活動課	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)
			⑩ 生徒会役員が中心となり、登校時に「あいさつ運動」を実施する。	⑩ 生徒会役員が火・金曜日の登校時に校門前で朝の「あいさつ運動」を実施した。また、生活委員会や交通委員会が月2回「あいさつ運動」を実施した。	生徒会だけでなく各種委員会や部活動にも広げることができた。
					○生徒数は減少してきているが、さらに多くの生徒に参加してもらい活気のある学校にしていきたい。

自己評価	重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
				評価指標	評価指標の達成度	総合評価	学校関係者の意見		
社会的自立のために必要な能力や態度の育成	③社会的自立のために必要な能力や態度の育成	進路指導課		評価指標	① 生徒に進路情報を随時提供することができたか。	① 進学希望、就職希望の両方に対応できるように、取捨選択しながら様々な情報の掲示や伝達を随時行った。	総合評価 (評定) A (所見) ガイダンスが開催できず生徒は情報不足気味であったので、できるだけ情報の提供については細かに行った。 アンケート結果により目標が達成できた。	最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上と大変高く、早い段階での進路への意識付けを来年度も引き続き行っていたきたい。 地域との連携による総合的な探究の時間の充実が今後益々必要になってくる。	○アンケートの数値は、昨年度より満足度が低下したものの、高いレベルを維持できている。これを来年度以降も継続できるように、学力の育成、目標へ向かった課題解決などを、学年や各教科と連携して取り組んでいきたい。
				② 最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上、本校の進路指導に満足する生徒の割合が90%以上であったか。(R2: 97%, 97%)	② 最終進路先に満足する生徒の割合が95%、進路指導に満足する生徒の割合は93%で、いずれも目標を達成した。				
	進路指導課		活動計画	① 生徒に進路情報を随時提供する。 (「木鐸」年1回、職場体験やオープンキャンパス等各種案内随時)	① 進路の手引き「木鐸」や進路ニュースの発行を通して本校独自の情報を伝えた。また、掲示や配布により様々な進路情報を提供した。	総合評価 (評定) B (所見) 「総合的な探究の時間」における調べ学習や探究活動においては、生徒の主体的・積極的な学習態度が見られた。志望理由書模試は推敲を重ねることで、生徒の進路意識を深めることができたが、講演会等への主体的な姿勢があまり見られなかった。	「総合的な探究の時間」の充実のためには、教職員間の共通認識と協力体制が必要であると感じた。探究担当としては、学習目標と学習計画を事前に教職員に対して明確に提示するだけではなく、学年ごとの説明をしていきたい。		
			② 生徒の進路相談に随時応じ、丁寧な進路指導を行う。	② 進路指導室や就職指導室を活用して、生徒からできるだけじっくり話を聞きながら進路相談に応じた。					
	進路指導課(探究)		評価指標	③ 進路意識を高める行事や講演会等に主体的に参加する生徒の割合を84%以上とすることを達成する。(R 2年度83.2%)	③ 3学年では、主体的に参加した生徒の割合は83.5%であった。他学年では、講演会の実施をZOOMで開催したが、生徒の進路意識を高めることにはあまりつながらず、目標の数値を達成することができなかった。	総合評価 (評定) B (所見) 「総合的な探究の時間」における調べ学習や探究活動においては、生徒の主体的・積極的な学習態度が見られた。志望理由書模試は推敲を重ねることで、生徒の進路意識を深めることができたが、講演会等への主体的な姿勢があまり見られなかった。			
			④ 各学年での志望理由書に関する取り組みに対して、アンケートによる生徒の満足度を86%以上とすることを目指す。(R 2年度85.0%)	④ 3学年の満足度は86.5%であった。志望理由書模試講演会の実施などが生徒に良い影響を与えたと考えられる。					
	進路指導課(探究)		活動計画	③ 「総合的な探究の時間」の計画において、生徒の実態に応じ、進路意識を高める行事や講演会等の内容の改善を図り、生徒が主体的に参加することができるようにする。	③ 1学年では、「エシカル消費」に精通した外部講師を9回招き、身近な問題について関心を持つ意識付けを行うことができた。2学年はグループでの探究活動を行い、石井町中央公民館で発表会を実施した。3学年では、進路に関する課題研究や卒業制作を行い、主体的に取り組むことができた。学習目標と計画を随時提示しながら指導を行った。	総合評価 (評定) B (所見) 「総合的な探究の時間」における調べ学習や探究活動においては、生徒の主体的・積極的な学習態度が見られた。志望理由書模試は推敲を重ねることで、生徒の進路意識を深めることができたが、講演会等への主体的な姿勢があまり見られなかった。			
			④ 志望理由書に関する取り組みを2・3学年の年間計画に位置づける。各ホームルームでの事前指導を経て、志望理由書模試を実施し、事後指導の後、アンケートで生徒の満足度を確認する。2・3学年では、事前指導の中で講演会も実施する。	④ 2学年の志望理由書模試は2月24日に実施の予定である。3学年は1学期に志望理由書模試講演会を受講した後、再度志望理由書を書き直した。					
	3学年共通		評価指標	⑤ 全生徒と各学期に1回以上進路や学習、生活面についての面談をする。	⑤ 学期初めや進路決定の時期に、生徒の不安を聞くなど適切に面談ができていた。1.2年担任はコース選択や進路目標設定などについて、熱心に面談した。3年担任は進路実現に向けた面談・小論指導など学年や進路課を中心としたきめ細やかな個別指導を行ったので生徒の進路実現満足度は95%であった。	総合評価 (評定) B (所見) コース選択説明会や小論文・志望理由書講演会において、生徒自身が目標や課題について考えを深めた。1年生は探究の講演で進路や生き方について考えるきっかけになった。県外の講演者との講演はすべてZOOMで実施した。	進路(進学・就職)について早い段階で意識づけ、具体的な目標を持たせることが必要である。特に科目選択では、数学や理科の選択によって進路選択の幅が狭くなる。新教育課程では現教育課程以上に早期の時期から進路選択考えさせる必要がある。		
			⑥ 講演会や学年集会を各学年5回以上開催する。 (R2:1年12回, 2年10回, 3年7回)	⑥ 進路希望調査(1月)では進路が未定の生徒は1, 2年生とも0人であった。講演会や進路集会(1年9回, 2年8回, 3年10回)の効果があった。					
	3学年共通		活動計画	⑤ 生徒と担任、学年団との面談を実施し、個別にきめ細かい指導を行う。	⑤ 生徒の様子をみて昼休みや放課後を利用して担任や学年主任、部活動の顧問を含めての個別面談を行った。	総合評価 (評定) B (所見) コース選択説明会や小論文・志望理由書講演会において、生徒自身が目標や課題について考えを深めた。1年生は探究の講演で進路や生き方について考えるきっかけになった。県外の講演者との講演はすべてZOOMで実施した。			
			⑥ 進路に関する講演会や学年集会を通して学力向上への意欲や、望ましい職業観の確立を図る。	⑥ 年度当初と長期休業前、進路については各学年で集会を行った。その他、1年生は探究に向けた講演会や保健・安全指導、2年生は進路、3年生は進路決定を中心に実施した。					

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	教務課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 落ち着いた雰囲気の中で授業が実施できている。各教員は、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を心掛けており、授業や学習に対する生徒の取り組みも改善しつつある。長期休業中に実施している欠点取得者対象の基礎学力補充講座は生徒の基礎力の養成につながっている。	家庭学習や週末課題等による基礎基本の定着と授業研究による学力向上に努めて欲しい。 ○各教科においてルーブリックに基づいた指導のより一層の充実を図る。 ○より良い授業実施のための職員全体による授業改善や指導方法の研究を行う必要がある。
			① 定期考査期間中の平均家庭学習時間2時間以上の者が30%以上、かつゼロ時間の者がゼロであるようにする。(R2:2時間以上の者の割合は54%、ゼロ時間の者の割合は2%)	① 学習時間2時間以上の者の割合は56%、学習時間ゼロ時間の者の割合は2%であった。		
			② 成績不振者数の割合を、前年度1・2学期と比較して、減少させる。(R2:1学期は前年比較で9名増。2学期は前年比較で4名増。)	② 欠点取得者について、1学期は昨年度より24名減少し、2学期は昨年度より6名減少した。		
			③ 成績不振者に対して、休業中に基礎学力補充講座を行う。出席率を100%にする。(R2:出席率は100%)	③ 1、2学期とも基礎学力補充講座の欠席者はなかった。(出席率100%)		
		教務課	活動計画	活動計画の実施状況		
			① 学習時間調査を実施し、生徒に対する意識づけを行い家庭学習時間ゼロをなくす。	① 考査時間割発表から学習時間調査を実施し、計画的に学習ができるように学習時間を配付し、担任の先生方がそのチェックと状況把握を行い指導に役立てた。		
			② 授業やホームルーム、集会等で学習意欲を喚起させるとともに、授業態度や提出物等の指導を徹底する。	② 各ホームルーム担任や教科担任によるきめ細やかな指導を行うとともに、継続的に進路や教務担当教員、学年主任からも授業の大切さや学ぶことの重要性等について話をした。		
			③ 夏季及び冬季の長期休業中に基礎学力補充講座をそれぞれ3日間実施し、学力の補充に努めさせる。	③ 欠点取得者が昨年度と比較して1学期で24名、2学期で6名減になっているが、入学予定者が減少しているため、決して楽観視できる変化ではない。しかし、全日程を欠席する生徒がなかったことやその取り組む姿勢から、欠点解消の重要性についての意識付けとはなったと考えられる。		
			④ 行事などの精選を図るとともに、自習を減らし、授業の振り替えをする。	④ 感染症対策関連のための急な年休があり、昨年度に比べて自習での対応が増加した。しかし、多くの場合、教員は出張・年休等の連絡を早めすること心がけており、90%を超える割合で授業の振り替えを行っている。		

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	国語科	評価指標 ⑤ 漢字や語彙の定着を図るため週末課題にして提出させる。提出率を100%にする。 ⑥ 授業評価アンケートの「教科に関する興味・関心」「充実度」がある生徒の割合95%以上を目指す。(R2:95%) ⑦ 授業評価アンケートの「宿題をしている」生徒の割合を80%以上にする。(R2:80%)	評価指標の達成度 ⑦ 週末課題の提出率は91%であった。 ⑧ 教科に関する興味関心86%・充実度は90%であった。昨年を下回る結果である。 ⑨ 「宿題をしている」生徒の割合は90%であった。	総合評価 (評定) B (所見) 教科に関する興味や関心・充実度において昨年の数字を下回っているが、「宿題をしている」生徒の数字が10%上昇している。積極的に学ぼうとする姿勢が生まれているように感じる。今後も分かりやすい授業の実施と協働的な学び(パフォーマンス課題)を継続して行いたい。	ルーブリックに基づいた授業をされていて、新学習指導要領に基づいた指導をパフォーマンス課題を通して実施する。
		国語科	活動計画 ⑤ 授業と家庭学習を連動させる。語彙力の定着と社会に目をむける意識づけをする。 ⑥ 協働学習や発表により達成感や充実感を味わわせる。便覧・資料等を活用してより深く興味・関心を引き起こし、積極的な授業参加ができるよう配慮していく。 ⑦ 授業の目標を明確にし、授業の内容にあったプリントや週末課題を配付し、家庭学習の習慣を身につけさせる。プリントや週末課題はファイルし、提出させて評価する。	活動計画の実施状況 ⑦ 週末課題と課題テストの範囲を連動さH125:I127せた。長期休業中には、新聞記事の読み比べ課題や新聞感想文コンクールに応募する作品制作を行った。 ⑧ 学期に1度パフォーマンス課題を設定し協働して探究する機会を設けた。タブレットPCの導入により、調べる作業が迅速に行え、興味関心も高められた。協働して行うことで積極的に参加する生徒も多く、知識理解が深まったと感じている。 ⑨ 授業内容に即したプリント作成と生徒が理解するためのヒントを加えた授業プリント作成により授業を行った。プリントの整理は全員がファイルを持ち、定期テストごとにチェックを行った。		
		地歴・公民科	評価指標 ⑧ 授業評価の「興味・関心」「充実度」で、8割以上の生徒が満足することで、基礎的・基本的な学力の育成をはかる。(R2:85%) ⑨ 基礎的・基本的な学力を身につけさせるために、定期的にノート、プリント等を提出させる。提出率を100%にする。(R2:100%)	評価指標の達成度 ⑧ 「興味・関心」「充実度」について、90%の生徒が満足していた。 ⑨ 定期テストごとのノート、プリント提出を定着させ、提出率100%を達成した。	総合評価 (評定) B (所見) 時事問題や対話的な学びを取り入れることで、現代社会における諸課題についても興味・関心を高めることができた。こうした取り組みは、生徒の主権者意識の向上にも寄与していると考えている。	
		地歴・公民科	活動計画 ⑧ 毎時間、時事問題や対話的な学びを取り入れ、生徒の興味・関心を高めるとともに、能動的に学ぼうとする姿勢を育む。 ⑨ 基礎基本の定着をはかるため、定期テストごとにノートを提出させ、未提出の者には提出を促す。ノートを効率よくとれるよう板書計画を吟味する。	活動計画の実施状況 ⑧ 毎時間、授業内容に即した「時事問題」や、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」を取り入れるようにし、生徒の関心や理解度が高まるよう工夫した。 ⑨ 基礎基本の定着のため、提出物についての指導のほか、教員間で情報交換をし、電子黒板を活用した教材開発にも努めている。その成果もあり、ほとんどの科目で平均点は60点以上となっている。		
						○I C T機器の効果的な利用と精選。他教科と連動した教科指導をパフォーマンス課題を通して実施する。

重点課題		自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	数学科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	コロナ渦での協働的な授業の展開は難しいと思うが、生徒の積極的な授業への参加を引き出し、わかりやすい授業の研究を進めていって欲しい。	小テストは回数を減らさず実施して、やればできるという感覚を生徒自身がもつことや家庭学習の定着に役立てたい。生徒のタブレットが数々の授業にどのように有効活用できるのかをさらに研究して実際の授業で活用したい。協働学習の機会を増やし、内化と外化の相乗効果で学習内容の定着と授業に対する興味関心を向上させていきたい。
			⑩ 1, 2年生の授業における小テストの正答率を70%以上にする。(R2: 1年生76%, 2年生64%) ⑪ 学年全員が履修する数学Ⅰの授業評価アンケートにおいて、授業に興味・関心を持った生徒の割合を80%以上にする。(R2: 56%)	⑩ 1年生は65%, 2年生は73%で、2年生は目標を達成できたが1年生では達成できなかった。 ⑪ 興味・関心を持った生徒の割合は生徒全員が履修する1年生数学Ⅰにおいて61.4%で目標を下回った。	(評定) B (所見) 数学の学習に対する意欲の個人差は大きいので、意識が低い生徒の方に全体が引っ張られないような工夫が毎年必要とされている。生徒がもっと興味関心をもてるような教師側の準備が必要である。		
		数学科	活動計画	活動計画の実施状況			
			⑩ 週に1度の予定で小テストを実施する。課題を事前に配布し、家庭で学習してから小テストを受ける流れを確立させることにより、基礎学力の向上につなげる。 ⑪ 毎時の目標を明確に示すとともに発問を多くしたり、協働学習を取り入れるなど、全員が授業に積極的に取り組んでいる態勢をつくる。	⑩ 科目により小テストの頻度は違うが、要所を捉えて小テストを実施した。再テストの実施や不合格者への指導など、事後の指導も含めて1年間を通して実施した。 ⑪ グループ学習などの協働学習の形をとることは昨年度より多くとれたが、以前に比べると十分ではない。タブレットを使用するなど、生徒の学習に対する意欲が少しでも高まるように工夫した。			
		理科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
			⑫ ノートやプリント、課題及びサブノート等の提出・確認を細かく行い、その提出率を100%にする。(R2:98%) ⑬ 理科関連のニュースを授業で取り上げることで、学習内容が現実社会と密接に関連していることを理解させ、学習意欲の向上に繋げる。 ⑭ 生徒がやる気を持って試験に臨み、満足できる結果を得るためのサポートを必要に応じて審査前に行う。また、年度末の欠点取得者をゼロにする。(R2:2%)	⑫ 継続的で細やかな指導を徹底したことにより、ほぼ100%の提出率(99%以上)になった。 ⑬ 授業において、環境問題やエネルギー問題、感染症、ノーベル賞の受賞内容など、多岐にわたって取り上げることにより、学習内容が日常生活に密接に関係していることを理解させることができた。 ⑭ 早めのテスト範囲の発表や、普段からの個別指導の徹底などを充実させた。	(評定) B (所見) ほとんどの生徒がまじめに授業を受けているが、理科の授業に対する興味や関心には個人差がある。課題やノートの提出の徹底や、補助教材の作成・配付、電子黒板を用いた授業の実施など、様々な工夫を凝らしたが、生徒の学習内容の理解にはまだまだ工夫が必要である。		
		理科	活動計画	活動計画の実施状況			
			⑫ 教科書の内容の理解定着をはかるためのきめ細かい指導と解説を行う。ノートを効率よくとれるよう板書計画を吟味し、生徒のノートやプリント等の定期的な提出と確認を行う。また、検印するなど後から確認できるようにする。 ⑬ ニュース・新聞等の記事から授業内容に即する内容についてプリント等を作成する。記事中の単語、内容の解説を行い、基礎的な科学的知識の習得に努める。月2回程度の取り組みを目指す。 ⑭ 生徒が学習に取り組みやすいよう、早めに審査の出題範囲や出題傾向を伝えたり、学習方法を伝授する。また、努力が結果に繋がる出題を心掛ける。必要に応じてテスト前に補習等を行う。	⑫ ノートや課題の点検等をこまめに行い、家庭での学習時間確保と学習習慣の定着がある程度で図れた。授業についても資料の配付や電子黒板を用いて分かりやすい授業の実施を心掛けた。また、ノートをとる習慣や提出物を締切までに提出することを継続的に指導した。 ⑬ ニュースや新聞及びネット記事を積極的に活用した。(月に2回以上実施)教科書の内容との関連性を説明するとともに学習内容が将来の生活に役立つ事について理解させることができた。 ⑭ 審査の範囲を早めに連絡し、学習に取り組みやすい環境をつくった。重要な内容については小テストを実施するなどして、学習内容の重点目標をしっかりと理解させることができた。			

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見		
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	英語科	評価指標	評価指標の達成度	(評定) B (所見) デジタル教材を効率よく活用し、生徒の理解度や学習意欲の向上につなげた。英語を苦手とする生徒が多いので、基礎基本の定着に力を入れているが、学年が進むにつれ内容が難しくなり、徐々に学期末で80点以上(評定5)を取る生徒が減っていった。習熟度の高い生徒には発展的な授業を行ったり、英語検定の積極的な受験を促し、対策講座を開いた。その結果、英検受験者は昨年の2倍となった。3年生では、1人1台タブレットを活用し、プレゼンテーションを行うなど、社会で必要となる思考力や表現力を養うような活動を積極的に取り入れた。	タブレットや電子黒板を利用した授業の開発や研究に期待する。	○ほとんどの生徒が週末課題や毎月の課題など与えられた課題にはまじめに取り組むが、英検受験のように自分で目標を決めてこつこつと取り組む生徒は少ない。今年度は1年生の希望者がドイツ高校生とメールで交流を始めたり、2、3年生が英語の授業でプレゼンテーションを行うなど、身の回りのことや自分の考えを英語で発信する機会を設けた。来年度もこの取り組みを継続し、他学年にも広げていきたい。
			⑮ 1年生の各学期末で80点以上(評定5)の生徒の割合を30%以上にする。 (R2: 1学期34%, 2学期14%)	⑮ 全クラス実施のコミュニケーション英語で、80点以上の生徒の割合は、1学期43%, 2学期38%で、目標を達成できた。			
			⑯ 2年生の各学期末で80点以上(評定5)の生徒の割合を30%以上にする。 (R2: 1学期30%, 2学期25%)	⑯ 全クラス実施のコミュニケーション英語で、80点以上の生徒の割合は、1学期30%, 2学期20%で、2学期に目標を達成できなかった。			
			⑰ 3年生の各学期末で80点以上(評定5)の生徒の割合を40%以上にする。 (R2: 1学期60%, 2学期26%)	⑰ 全クラス実施のコミュニケーション英語で、80点以上の生徒の割合は、1学期38%, 2学期30%で、目標を達成できなかった。			
		⑱ 年間の英検受験者数(延べ)と合格者数を前年より増やす。 (R2: 受験者数16名(延べ), 合格者数8名(合格率50%))	⑱ 年間の英検受験者数(合格者数)は、第1回11名(2名合格)、第2回10名(5名合格)、第3回10名(結果待ち)と、受験者数は昨年の2倍となり、目標を達成できた。				
		英語科	活動計画	活動計画の実施状況			
			⑮ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・繰り返し暗唱・復習することを奨励する。 ・小テストの結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。 ・「English for Tomorrow」(中学校復習教材)を週末課題とし、計画的に取り組ませる。また、自主学習を促す。	⑮ 電子黒板をほぼ毎時間使用し、効率よくポイントを理解させることができた。また、定期考査の前には復習のテストをし、成績不振者には個別指導を行った。「English for tomorrow」は、定期考査や課題テストの範囲とし、年間を通して計画的に取り組ませた。ペアやグループでのコミュニケーション活動は、感染対策を十分に行い、できる範囲で行った。			
			⑯ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・単語テストを実施し、語彙力をつける。 ・テスト対策プリントで、考査前にポイントを復習させる。	⑯ 電子黒板を最大限に利用し、各パートごとに重要ポイントや重要語句の整理をした上で、単語テストを含め繰り返しチェックを行った。習熟度の高いクラスでは、定期的に構文や難易度の高い単語の確認テストを行い、知識の定着をはかった。考査前にはテスト対策プリントで学習のポイントを復習した。			
	⑰ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・繰り返し暗唱・復習することを奨励する。 ・小テストの結果を集計・追跡し、評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。		⑰ デジタル教材を用い、重要なポイントの解説を効率よく行った。また、単語・熟語等の小テストで基礎基本の充実を図るとともに、大学入試問題のチェックテストで発展的な力を養い、その結果は評価の一部に加味した。1人1台タブレットを活用し、プレゼンテーションを行うなど、ICTを用いた授業にも積極的に取り組んだ。				
				⑱ 放課後、受験級に応じて一次試験の対策講座を開く。 ・ALTを中心に二次試験(面接)の練習をする。 ・英語科と図書室で英検対策問題集の貸し出しを行う。	⑱ 放課後、受験級に応じて一次試験の対策講座を定期的に開くとともに、長期休業中にも希望者に対策講座を開いた。一次試験合格者には、ALTと英語科教員による二次対策の面接練習を行った。英検対策問題集の貸し出しは6名であった。		

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	今後の改善方策
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	総務課 図書広報	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 B (所見) 本年度も全校読書会（ビブリオバトル）と絵本の読み聞かせ会は実施できなかったため、代替行事として、図書館フェアを実施した。図書館フェアでは、県立図書館での企画展「図書委員が選ぶ、思い出の一冊」で紹介された本の展示や紹介文の掲示などの新たな試みを実施したが、貸し出し冊数は昨年並みであった。「朝の読書」は定着しており、読書への興味関心は高まっていると思われる。	朝の読書が継続されていることや、学級文庫の充実、進路室前の移動図書館、図書室での「図書館フェア」など読書活動の向上に向けて工夫されているのは素晴らしい。 ○次年度も従来の方法での図書関連行事の実施ができない場合を想定し、本年度の取り組みをさらに広げていきたい。総合的な探究の時間や教科の調べ学習に必要な図書の購入や受験に関する図書の充実により、今まで図書館を利用していない生徒の読書への興味を増すような工夫をしていきたい。
			⑱ クラス読書会や読書週間などの図書関連行事を実施する。	⑱ 学年毎のクラス読書会と図書館フェアを実施した。		
			⑲ 読書活動に積極的に取り組んでいる割合を８０％以上にする。	⑲ アンケートで「朝の読書」の時間が充実していたと答えた生徒が、１・２年生は８８．５％、３年生は８２．２％であった。		
			⑳ 一人あたりの図書館利用回数を年間で９回以上にする。（４月～１２月）（R2 8.4回）	⑳ 一人あたりの図書館利用回数は年間で６．６回であった。（４月～１２月）		
			㉑ 一人あたりの年間貸出冊数を３冊以上にする。（４月～１２月）（R2 2.8冊）	㉑ 一人あたりの年間貸出冊数は２．７冊であった。		
			㉒ 名高ライブラリーを毎月発行する。	㉒ 名高ライブラリーを毎月発行することができた。		
		総務課 図書広報	活動計画	活動計画の実施状況		
			⑱ クラス読書会や読書週間の実施案内を教室に掲示し、積極的な参加を促す。	⑱ クラス読書会や読書週間の案内を行った。図書館フェアでは、ポスターを教室掲示し、くじ引きなどの催しも実施した。		
			⑲ 図書館や学級文庫にリクエスト本を購入し、蔵書の充実を図り、「朝の読書」の取り組みを十分に生かすことで、積極的に取り組む生徒を増やす。	⑲ 図書委員を中心に各クラスからリクエストを募り、生徒が読みたい本を購入できるようにした。学級文庫へのリクエスト本の購入時期を早め、夏休み前には各クラスへ配布することができた。		
			⑳ 図書室前の掲示板でおすすめ本を紹介し、図書館の本をテーマ別に紹介して、入館者数の増加を図る。	⑳ 新着本の紹介を掲示板でするとともに、図書館入り口にお薦め本を配置するなど、利用しやすい環境作りに努めた。		
			㉑ 教科・科目と連携して推薦本を紹介し、さまざまなジャンルの本に興味・関心を持たせ、貸出冊数の増加につなげていく。	㉑ 読書感想文全国コンクールや読書感想画の課題図書や各種文学賞受賞作品のコーナーを作るなど、教科との連携を図った。		
			㉒ 名高ライブラリーで新刊本やお薦め本を紹介し、教室に掲示する。	㉒ 名高ライブラリーで図書紹介を行うとともに、出張図書館にお薦め本を置くなど、図書館まで行かなくても本が借りられる環境作りを行った。		

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成	⑤活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成	特別活動課	評価指標 ① 自主的にボランティア活動を行った生徒が、全校生徒の60%以上だったか。 (R1 52.8% R2 様々なボランティアイベントが中止)	評価指標の達成度 ① とくしまマラソン、名高パトロール、地域の保育園の行事、石井町ボランティアフェスティバル、施設等への演奏会・作品展示など例年行っているボランティア活動が新型コロナウイルス流行のため、昨年同様全て中止となった。歳末助け合い運動の募金活動のみ行った。	総合評価 (評定) B	コロナ渦で活動を制限されていることや、文化部、運動部とも部活動の数や部員数が減少しているにも関わらず、成績の内容は素晴らしい。各部とも健闘しているのがわかる。テレビや新聞でもよく取り上げられていて、今後とも広報活動にも力を入れていただきたい。	○新しい生活様式でのボランティア活動のあり方や参加の仕方について考えていく必要がある。
		特別活動課	活動計画 ① 全校生に趣旨の徹底をはかるとともに、募金活動など、密集や接触を避けたボランティア活動の自発的な取り組みを推進する。	活動計画の実施状況 ① 様々なボランティアの機会が無くなってしまったが、ホームルームや掲示、放送などで歳末助け合い運動の趣旨を発信した。また文化祭の模擬店売り上げからも寄付したことで合計11319円の寄付をすることができた。	(所見) コロナウィルス感染拡大を防ぐためには人が集まることや接触する機会を減らすことが第一だったので仕方がなかった。		
	芸術科	評価指標 ② 校内での行事における演奏や美術・書道作品の展示を通して、生徒の豊かな感性を育む。	評価指標の達成度 ② 校内で学年ごとの演奏会や美術・書道作品を展示することにより、芸術科の学習活動の様子や成果を来校者や生徒たちに発信できた。	総合評価 (評定) A	生徒の豊かな感性や創造力を十分に引き出し、発信できるよう心がけた。	○継続した学習の成果が結果となって表れた一年であった。次年度も各コースで充実した活動ができるよう真摯に取り組みたい。	
	芸術科	活動計画 ② 県内唯一の芸術科を持つ学校としてその有利性を発揮し、校内で演奏や美術・書道の常設展示を行い、学期に1回以上演奏会や展示替えを実施する。(R2 美術・書道合わせて4回)	活動計画の実施状況 ② 演奏会や作品発表の機会は昨年度より増えたが、まだまだ以前と同じような活動はできていない。校内での演奏会は5回、美術・書道作品の展示替えは8回実施した。	(所見) 生徒の豊かな感性や創造力を十分に引き出し、発信できるよう心がけた。			
	特別活動課	評価指標 ③ 全国大会に2名以上、四国大会に10名以上の出場を目標とする。 (R1. 全国13名、四国30名、R2. 県総体代替大会優勝 相撲部、陸上部、弓道部)	評価指標の達成度 ③ 全国大会に13名、四国大会に36名が出場し、目標を大きく上回ることができた。	総合評価 (評定) A			○次年度は、生徒数が更に減ってしまうが、それぞれの部活動で、活発に魅力を発信し、活性化を図る。
		④ 高文祭では全国大会に3部以上、各種大会・コンクールについては全国規模の入賞・入選数80を目標とする。 (R2. 高文祭4部門、入選102)	④ 高文祭においては、美術・書道・吟詠剣詩舞・写真が全国へ出場した。全国規模の入賞も書道を中心に入選入賞数は78となった。				
	特別活動課	活動計画 ③ 生徒数は減少しているが、体育部の活動者数を確保し、大会参加や活動の機会を活かし、粘り強く指導する。	活動計画の実施状況 ③ 体育部の入部率は前年度と変わらず33%であった。	(所見) 体育部・文化部ともに、活動内容などを発信し、活性化、成績向上を目指したい。			
		④ 生徒数は減少しているが、文化部の活動者数を確保し、大会参加や活動の機会を活かし、粘り強く指導する。	④ 多くの生徒が県総文祭に参加した。箏曲部、書道部、美術部の全国総文祭参加など、コロナ下での開催という新しい形での参加形態だったが、それぞれ工夫と努力を重ね、日頃の活動の成果を見せた。				

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		学校関係者の意見	
活 力 あ る 部 活 動 と 学 校 を リ ー ド す る 生 徒 の 育 成	⑤活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成	人権国際教育課 英語科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 B	ボランティア活動は2年間できなかったが、新しい形の活動や国際交流の機会を設けていただき、生徒の活動の幅を維持してもらいたい。
			⑤ 外国の文化・慣習等に興味・関心を持ち、国際交流への意識を高めた生徒の割合を70%以上にする。(R2:76%, R1:71%)	⑤ 全校生徒対象のアンケートで、国際交流への意識を「大変高めた」「高めた」と答えた生徒の割合は66%で、目標を達成できなかった。		
		人権国際教育課 英語科	⑥ 生徒の国際理解を深めるために、全校生徒対象の講演会等を1回以上開催する。(R2:0回, R1:3回)	⑥ 全校生徒対象の講演会等を開催しなかったため、目標は達成できなかった。	(所見)昨年度の改善方策に掲げていたオンラインによる姉妹校交流を実施することができた。海外との直接的な交流事業や国際理解講演会を2年続けて実施することができなかったため、国際交流への意識を高めたと答えた生徒の割合は昨年より減少した。	
			評価計画	活動計画の実施状況		
			⑤ A L T の授業を全クラス最低2週間に1回は行う。 オンラインでの国際交流を実施する。	⑤ 学期ごとにティームティーチングの計画を立て、急な出張の際にも振替を行った。特別時間割を除くと計画通り実施できた。オンラインでの国際交流は、2年生が藤波の時間にドイツ姉妹校と交流した。1年生は、2学期から、33名の生徒がドイツ高校生とメール等で交流を始め、現在も続いている。		○次年度は、引き続きオンラインによる姉妹校交流や国際交流の機会を設けたり、新型コロナウイルスの収束状況によつては、直接的な姉妹校交流の再開についても検討していく予定である。また、国際交流への意識をより高めるために、全校生徒を対象とした講演会等を開催するつもりである。
			⑥ 外国の方や海外経験の豊富な日本人を招き講演会を実施する。	⑥ 新型コロナウイルスの影響で、外国の方や海外経験の豊富な日本人を招くことができなかったが、台湾の姉妹校から友好の印としてマスクを全校生徒に送ってきてくれた。		

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	総務課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評価) B (所見) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響をあらゆる場面で受け、思うような活動はできなかった。しかし、会議等は延期し状況に応じて臨機応変に開催し、県内在住の人や都合のつく範囲内で縮小しながらも開催できたことはよかったと思う。	生徒の校外活動やPTA活動等には制限があったが、感染対策に気をつけながらパトロール隊や地域貢献、ケーブルテレビなどでの発信は地域の人によく広報できている。
			① 保護者と生徒、教職員が協力して校外清掃奉仕活動や、校内美化活動を行う。	① コロナ対応もあり、保護者と協力しての活動は実施できなかった。		
			② 文化祭・体育祭に、PTA役員を中心とした多くの保護者が参加し、教職員と連携して生徒の諸活動を支える。	② コロナ対応のため非公開で開催し、保護者によるバザーや湯茶の提供をお願いすることはできなかった。		
			③ 校外における各種研修に多くの保護者が参加し、諸問題について理解を深める。	③ 開催された各種研修については、すべて出席していただくことができた。		
		総務課	④ 全会員にPTAの活動についての報告・広報を年間3回以上する。	④ 総会の報告や学校祭の開催の仕方等で年間3回は連絡することができた。		○コロナウィルスの影響がいつまで続くのか先が見通せないが、令和5年度には本校は百周年を迎える。当然PTAや同窓会に大いに協力を仰がなければならぬので、今後の大切な会議等に支障がないことを祈る。場合によってはそういった会議もオンラインで行いながら計画を進める必要があるかもしれない。
			⑤ 藤花同窓会と学校が連携して充実した同窓会活動を実施する。藤花同窓会の活動について、在校生や地域に周知・広報し、総会に多くの会員が参加する。	⑤ 今年も県内在住の方に限られ、開催時期も延期されたこともあったが、例年通りの出席者を迎え同窓会が開催された。しかし同窓会入会式は学校長が代理で行い、卒業30年目の同窓会は来年以降に延期となった。		
			活動計画	活動計画の実施状況		
			① 石井駅周辺の通学路、及び校内の美化活動への参加を呼びかける。	① 今年は、生徒のみの活動で学校敷地内の外庭清掃に規模を縮小して実施した。		
			② 状況を見ながら、文化祭での模擬店出店、体育祭での麦茶・スポーツドリンク提供について、全保護者に参加を呼びかける。	② コロナ対応のため非公開で開催し、保護者によるバザーや湯茶の提供をお願いすることはできなかった。		
			③ 徳島県高等学校PTA連合会、生徒指導連絡協議会等の総会・研修会等への参加について、適宜案内する。	③ PTA会長を中心に、開催されたすべての会議や研修に参加していただくことができた。		
			④ PTAに関する事業報告・事業計画は、5月の総会中止に伴い、第1回理事会で提案・決議するとともに、総会の決議に代え、全会員に書面にて報告する。また、ホームページに、年間の行事や活動への参加案内、及び活動の様子や報告を掲載する。	④ 総会に代わる理事会での議決事項の報告は書面で行うことができた。		
			⑤ 状況を見ながら、10月の藤花同窓会総会・懇親会を開催し、役員及び卒業30周年の会員を中心に参加を広く呼びかける。諸活動の円滑な実施のため、役員会を年3回開催する。卒業式前日に同窓会入会式を実施して、各ホームルーム理事に委嘱状を手渡し、同窓会会員となる自覚を促す。	⑤ 今年も県内在住の方に限られ、開催時期も延期されたこともあったが、例年通りの出席者を迎え同窓会が開催された。しかし同窓会入会式は学校長が代理で行い、卒業30年目の同窓会は来年以降に延期となった。		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	教務課	評価指標	⑥ 「入学案内」は、本校教育の内容をわかりやすくまとめ、説明会等の資料として積極的に活用する。	（所見） 近年の芸術科の実績やエシカル関連の取り組みなど、本校の活動を知ってもらえる機会も増えている。生徒と共に作成した新しいPR動画や「入学案内」及びHPを積極的に活用し、本校の特色や魅力をあらゆる機会を通して発信していった。	○「入学案内」の更なる充実・改定及び活用方法や配付方法を検討する。 ○PR動画の活用方法及び紹介方法を検討する。	
			⑦ 体験入学等の参加生徒や保護者に、本校の教育内容や特色をわかりやすく説明する。R元体験入学アンケート結果（よい以上-生徒92％、教員・保護者84％）を上昇させる。	⑦ 今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、夏季休業中の体験入学は中止した。代わりに秋にオープンスクールをオンラインで実施し、授業の公開を行うとともに、中学校教員対象に説明会を行い好評を博した。			
			⑧ 本校の教育実践をわかりやすくまとめた「教科ルーブリック」を作成し、在校生、入学希望者やその保護者に配布し、周知する。	⑧ 入学時に本校の「教科ルーブリック集」が配付し、周知している。中学校へは学校説明会等で配付し、HPにも掲載することで周知できた。オープンスクールや『進化するイノベーション事業』関連の研究授業等の動画を配信するなどし、本校の取り組みを発表し、事前に申し出があった県内の教職員に周知した。			
			⑨ オープンスクールの参加生徒や保護者に、本校の教育実践をわかりやすく説明する。	⑨ 10月2日にオープンスクールを行った。感染症予防対策のため、本年度はZOOMを用いたオンライン開催となったが、中学生52名の参加があった。			
			活動計画	⑥ 「入学案内」の構成や情報・内容を改良するとともに、最新の情報に更新していく。また、依頼のある中学校には配付する。			⑥ 写真の見直しを行うとともに、在校生や卒業生の生の声をさらに充実させた。各中学校での説明会を実施した以外の中学校や、依頼のあったすべての中学校に配付した。
		教務課	⑦ 学校説明会、体験入学、HP等を通じて、本校教育の特色など本校に関する情報を提供し、中学生が進路を選択する際に活用してもらう。体験入学の際にアンケートを実施する。	⑦ 学校説明会用普通科PR動画を新しく作成した。中学校での学校説明会や本校のオープンスクール等の機会に、「入学案内」やPR動画などを用いて本校の特徴や魅力を積極的に紹介した。HPにおいても様々な情報を発信していった。体験入学は中止した。			
			⑧ 「教科ルーブリック」の構成や内容を見直すとともに、修正する。	⑧ パフォーマンス課題・評価を用いた授業デザインの研究のため、「教科ルーブリック」の見直しは十分ではなかったが、パフォーマンス課題を評価するルーブリックの作成を研究することができた。			
			⑨ オープンスクール、HP等を通じて、授業（パフォーマンス課題を取り入れたもの）に関する情報を提供し、中学生に参観してもらう。	⑨ 10月2日オープンスクールを10月16日には芸術科進学説明会をオンラインでパフォーマンス課題を取り入れた研究授業を行い、ほぼすべての教科の授業の様子を動画で配信し、事前に申し出があった県教育委員会、県立学校、中学校の教職員にも公開した。			
			総務課 図書広報	評価指標	⑩ 学校行事や部活動等の様々な取り組みをホームページで頻度多く掲載する。月に10回以上の更新を行う。（昨年度最少更新月回数8回）		（所見） ホームページの掲載数を増やし、学校生活の様子を更に発信していく。
		総務課 図書広報	活動計画	⑩ 各課に更新作業の出来る教員を増やし、学校行事や授業の様子、部活動の取り組み等を紹介する。	⑩ 課内の教員だけでなく、各教科や各部活動の顧問の方にご協力頂き、記録用の写真を提供してもらったり、ホームページのアップ作業して頂いたりした。		

			自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	芸術科	評価指標		評価指標の達成度		総合評価
			⑪ 地域社会と連携し、県内唯一の芸術科を有する学校として、生徒の技術力を活かした芸術・文化の発信に寄与する。	⑪ 秋の交通安全キャンペーン期間に徳島名西警察署に防災書道作品を寄贈した。生徒の芸術力をいかした活動ができた。	(評定) B		
		⑫ 展覧会・演奏会等の広報活動（ホームページ・ポスター・新聞等）を迅速に行うとともに、中学生を対象とした行事の充実を図る。	⑫ 観客制限や新型コロナウイルス感染症対策をとり、第1回名西高校フェスティバルを開催した。芸術科の持つ魅力を地域に発信することができた。	(所見) 第1回名西高校フェスティバルを、音楽・美術・書道コースが初めて同会場（あわぎんホール）で開催した。演奏会では3コースのコラボレーションもあり大変好評であった。			
		芸術科	活動計画		活動計画の実施状況		
			⑪ 地域での文化祭や展覧会、文化行事などにおいて、生徒の演奏会や作品交流を中心とした活動に参加する。	⑪ 地域における文化行事も中止となり、依然として十分な交流はできないが、ケーブルテレビ等で生徒作品を発表できた。			
		⑫ 校内外で展覧会・演奏会を年間3回以上実施する。オープンスクールで芸術科部活動見学会を実施する。(R2 参加者43名)	⑫ 校外での演奏会や展覧会を10回実施した。Zoomによるオープンスクールでは各コースの授業の様子や動画を配信した。(R3 参加者36名)				
	生徒指導課	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	
		⑬ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して地域の安全のため、パトロールや挨拶運動、美化活動を年30回以上実施する。(R2は35回)	⑬ 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなど32回、意欲的に活動した。	(評定) A			
		生徒指導課 家庭クラブ	⑭ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献する。(R2はコロナのため中止)	⑭ 春と秋の全国交通安全運動期間に徳島名西署と連携して、街頭キャンペーンを実施する予定であったが、コロナウイルス感染のリスクを考慮して秋は実施できなかった。	(所見) 運動部員がキャップをかぶり、挨拶運動や学校周辺のランニングを行いながら名高パトロールをするなど、地域の安全に貢献することができた。コロナウイルス感染拡大を受けて、従来どおりの活動はできなかったが、生徒に社会の一員である自覚を育てるとともに、地元から信頼される学校となるためにも活動を継続・発展させていきたい。		
			生徒指導課	活動計画		活動計画の実施状況	
		⑬ 運動部員を中心とした「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動を適宜実施する。		⑬ 徳島名西署や青少年育成センターと連携を図りながら、部活動時のパトロールや校門前での挨拶運動など様々な取組を実施した。			
		生徒指導課 家庭クラブ	⑭ 徳島名西署と連携を図り、交通委員会がキャンペーンを実施する。また秋の交通安全キャンペーンでは学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。	⑭ 徳島名西署や交通安全協会と連携を図り、秋の交通安全運動キャンペーンで家庭クラブが手作りで作成した「無事カエル」のマスコット人形を交通安全啓発のパンフレットと一緒に配布する予定であったが、コロナウイルス感染のリスクを考慮して実施しなかった。			

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見		
文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	⑦文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	総務課 図書広報	評価指標 ① 各行事の結果等については、実施日から3日以内の更新を心掛ける。生徒の活動の様子等の紹介を月3回程度を目標に更新する。	評価指標の達成度 ① 3日以内の掲載についてはおおむね達成できたが、日々の生徒の活動の様子についてはまだ回数が少ない。担当を決め、更新回数を増やす工夫が必要である。	総合評価 (評定) B	ホームページによる活動発表に加え、今後は石井町のアプリ（いいアプリ）に情報を発信するなど地域との共同開発も検討してもよいかと思う。中学校や地域との連携もまた再開を願っている。	
		総務課 図書広報	活動計画 ① 各行事の記録を確実にし、地域に発信を行う。各行事が終わって3日以内で発信できるようにする。	活動計画の実施状況 ① 行事記録の担当が責任を持って撮影し、WEB上に記事を掲載できるように更なる研修を行う必要がある。課員だけでなく、各教科や各部活動の顧問に協力体制を呼びかける必要がある。	(所見) 記録はとれているので、誰がweb上にあげるかを明確にする必要がある。		
	芸術科		評価指標 ② リーディングハイスクールの取り組みを活かした活動を積極的に地域へ発信する。(R2 9回)	評価指標の達成度 ② 各コースのリーディングハイスクールの取り組みの様子を迅速に地域に発信できた。	総合評価 (評定) A	○芸術科会議（主任会議）を定期的に開催することでコース間連携をはかり、各コースでの活動を更に充実させたい。	
			③ 芸術科の各行事や日々の取り組みを、ホームページやさまざまな機会を通じて効果的に案内・広報する。	③ HPで芸術科のPR動画を掲載し、各コースの魅力を広報した。第1回名高フェスティバルのポスター・ちらしを県内全中学校や関係機関に配布した。	(所見) 定期的な芸術科会議（主任会議）を開催することにより、各コースの取り組みや活動の様子を共通理解することができた。HP更新数も増加した。		
	芸術科		活動計画 ② 校外での演奏会や作品展を実施し、生徒の持つ芸術力をアピールする。Web上での「名高作品集」の更新を積極的に行う。	活動計画の実施状況 ② WEB上の「名高作品集」で美術・書道の作品を更新しながら、生徒作品を鑑賞できるようにした。			
			③ 各コースの担当者は、芸術科の各行事や日々の取り組みを、迅速にホームページに掲載する。(R2更新数 42回)	③ 各コースのHP担当者が行事や生徒の活躍（受賞結果）等を迅速に更新できた。(R3更新数 49回)			

重点課題			重点目標		主担当	自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標と活動計画			評価		学校関係者の意見		
防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	⑧防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	環境防災課	評価指標			評価指標の達成度		総合評価	防災教育に関して、生徒の意識を高めることは大切だと思う。環境教育や地域との連携は社会人になるに当たり地元の中心と期待されるので、高校でも体験する機会を増やして欲しい。	○今年度は昨年に引き続き校外活動ができなかったのが、地域とのかかわりという点においては成果を出すことは難しかった。一方、広い校舎を限られた人数で清掃し、美しく保つという点では、さらに生徒数が減少したとしても、継続して取り組みたい点である。そのためには、より効率的に、無理なく無駄なく活動することが求められる。生徒の力を十分発揮するために、方法や手段は生徒の状態に合わせた変化が必要になる。
			① 避難訓練を年2回実施する。		① 災害避難訓練と火災避難訓練を実施した。	(評定) B				
			② 外部機関と連携した防災教育を実施する。		② 火災避難訓練の際、消防署の方々にお越しいただき、消火器の使い方や火災について解説していただいた。	(所見) 本校の生徒は、素直で従順であり少ない人数で広範囲にわたる清掃をこなしている。委員会の枠を越えて名西高校生全員が、防災や環境に対する意識を高め、いずれは地域のリーダーとして活躍できるよう、日常の活動から積極性を養ってほしい。				
			③ 防災クラブの活動を十分に行う。		③ 防災クラブ委員に対し、7月に防災用品の簡易トイレとベッドの組み立て研修を行った。					
			④ ゴミの分別をすることがECOにつながることを自覚させる。		④ 環境委員にごみの分別整理をしてもらい、教室でも分別を意識してもらえよう声掛けを行った。ペットボトルの蓋はJRCにワクチンのために使ってもらった。					
			⑤ 環境を整え学習効果をあげるとともに、美化を推進する。		⑤ 普段の清掃で行き届かない場所は、特別清掃で全HRで分担して徹底した清掃をおこなった。					
			⑥ 地域の美化に貢献する気持ちを育て、奉仕の精神を養う。		⑥ 駅周辺の清掃を予定していたが、コロナの影響で郊外活動はできなかった。					
			活動計画		活動計画の実施状況					
			① 緊急時に適切な行動がとれるようにするため、地震・火災を想定した避難訓練を実施する。		① 地震・火災避難訓練を行った。火災避難訓練時には消火器の使い方を教わり実際に使用してみた。					
			② 安全確保に対する意識を高めるため、防災教育を充実させる。		② 避難訓練時に確実に机の下に一時避難してから迅速な校舎外への避難を徹底させた。					
			③ 防災クラブの活動として、1・2学期末に防災活動を積極的に行う。		③ 防災用品の組み立てを行い、非常時に備える心構えができた。					
			④ ゴミ分別チェックを実施する。		④ 環境委員にペットボトルを分別してもらいこまめに分別することがごみの削減につながることを体験した。					
			⑤ 月に1回大掃除を実施する。		⑤ 行事との兼ね合いで不定期に大掃除を実施した。					
			⑥ 1, 2学期末に校外奉仕活動を積極的に行う。		⑥ 校門付近の工事及びコロナの影響で校外に出ていくことはなかったが、溝掃除など校舎外の清掃を念入りにすることができた。					

重点課題		自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点目標		主担当	評価指標と活動計画		評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
主権者教育・消費者教育・情報教育の推進	⑨主権者教育・消費者教育・情報教育の推進	地歴・公民科	評価指標	① 主権者意識を高めるため、生徒会役員選挙時に石井町選挙管理委員会の協力を得て模擬投票を実施する。(R2:3年生のみ実施)	評価指標の達成度	① 10月19日生徒会役員選挙において、コロナ禍のため3年生のみ模擬投票を実施した。	新しい重点課題でこれからの学校教育の課題でもある。3つの教育に共通しているのは、新しい教材の開発と教材の精選が大切であり、地域の課題を扱うなど研究するためにも教員の研修を充実させる必要がある。
			活動計画	① 公民科の授業では、総務省・文科省発行「私たちが拓く日本の未来」等を使用し、選挙制度について十分に理解を深め、主権者としてあるべき姿を考えさせる。	活動計画の実施状況	① 1年生の「現代社会」の授業において、「私たちが拓く日本の未来」等を使用するとともに、地元選出の県議会議員の方から講演をいただいたうえで条例案を作成するなど、主権者意識を高める活動ができた。	
		地歴・公民科 家庭科	評価指標	② 消費者情報センターから講師を招き、出前講座を実施する。(R2:実施)	評価指標の達成度	② 9月に3年生の「政治・経済」において、出前講座を実施した。	
			活動計画	② 家庭科の授業では、徳島県発行「社会への扉」等を使用し、消費者の権利と責任について考えさせる。	活動計画の実施状況	② 家庭科の授業でも、徳島県発行「社会への扉」等を使用し、消費者の権利と責任について考えさせることができた。	
		情報課	評価指標	③ 電子黒板やタブレットの導入など徳島県版G I G Aスクール構想における授業が円滑に行えるよう、機器の整備や活用法の指導などサポートを十分に行う。	評価指標の達成度	③ 生徒全員へのタブレットの配布、機器の基本的な活用法の説明は行えたが、十分活用できるところまでには至らない現状である。Metamojiやoffice365などを授業で活用し、円滑に利用できる状態にする必要がある。	
			活動計画	③ 生徒アンケートや電子黒板利用状況調査等を活用し、円滑な活用に向けてサポートを行う。	活動計画の実施状況	③ 生徒個々の活用スキルの格差がアンケートなどから見える。アンケート等の機会を捉え、必要に応じて基礎的なサポートを行う必要がある。	